
本郷台駅周辺地区まちづくり構想

栄区役所

平成 27 年 5 月

はじめに	1
1 栄区の特徴	2
(1) 人口	
(2) 高齢化	
(3) 豊かな自然環境	
(4) 道路・交通	
(5) セーフコミュニティ	
(6) 区民特性	
(7) 本郷台のまちづくりの検討に向けて	
2 本郷台駅周辺地区の現状と課題	6
(1) 駅前広場と公園	
(2) 交通アクセス	
(3) 駅周辺への集積	
(4) 高齢化	
(5) 豊かな水と緑	
(6) 区民の期待	
3 主な論点	13
(1) 本郷台の個性をどう考えるか	
(2) まちづくりの手法をどう考えるか	
(3) 賑わいづくりを考える	
(4) 公共的施設の整備を考える	

4 まちづくりの目標

15

(1) イメージ

(2) 目標

ア 区民が主役のまちづくり

イ 郊外部エリアの生活拠点のまち

ウ 水とみどり、そして人がたたずむまち

エ 福祉と文化・アート of 香るまち

オ 賑わいのあるまち

5 まちづくりの方針

17

方針1 駅前広場と駅前公園の再生

方針2 国有地の活用

方針3 アクセス改善

方針4 まちの運営

本郷台駅周辺地区まちづくりの方針

本郷台駅前広場と駅前公園のゾーニング

栄区道路交通網と生活利便施設等の分布

参 考

23

(1) まちづくり懇談会の概要

(2) 専門部会・公共機関部会の概要

(3) ワークショップの概要

(4) 意見募集

はじめに

本郷台駅付近は、かつては豊かな米作地でした。晩秋の黄金色に染まる稲穂のたなびく姿は、絶景と言われていました。今では想像できません。そのような農地も第二次大戦後は、米国に接収されました。

返還後は、根岸線が開通し、国有地を活用したまちづくりが進みました。大きな広場、広幅員の街路と規模の大きな街区、URや市営住宅の団地、公共的施設の整備などが行われ、今の姿になりました。

そして、ここ30年、世の中は大きく変化していますが、このまちは外見上ほとんど変わっていません。ただ、まちを利用する人たちは、少子化、高齢化や他の駅の利用など、賑わいは失われつつあります。清閑さにほっとするのどこかを感じますが、活力は低下してきていると言えます。

今、本郷台は、新しい兆しがあります。それは、南小菅ヶ谷住宅地区(国有地)の処分に伴う開発です。これを機に、本郷台の発展に向けた、新たなまちづくりを検討しています。

まちづくりには、民間の動向、都市計画の手法、公共施設の導入など多面的に考えていくべきですが、ひとつだけこだわらなければいけないことがあります。区民の皆様によるまちづくりです。まちづくりの企画、さらに、まちを利用する、まちでつながる、まちを盛り上げていく、いずれも、区民の皆様が主役で進めていくべきです。

本郷台駅のプラットフォームに上がると、栄区を見渡せる眺望に出会えます。連なる高層住宅と大きく成熟したけやき、その先に公田町や鎌倉の山々の稜線、いたち川を経由して流れる爽やかな風を感じることができます。

そして、本郷台には、新しい息吹があります。息吹のスタートが、このまちづくりの構想です。主役である区民の皆様の関心、アイデア、参加、行動が不可欠です。どうぞよろしくお願いいたします。

1 栄区の特徴

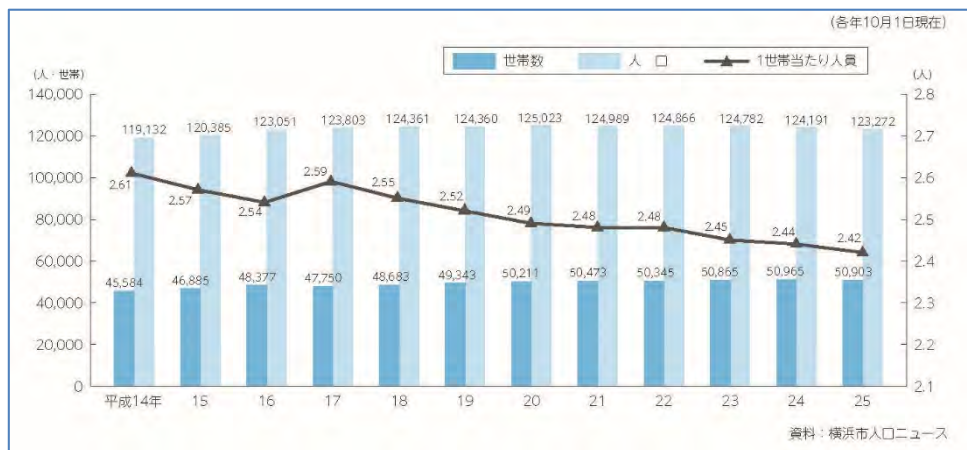
(1) 人口

栄区の人口は、昭和30年代後半から50年代前半にかけて、丘陵部に大規模な宅地開発が行われ、急増しました。昭和60年代以降は微増、平成10年代からは、約12万人でほぼ横ばいが続きました。平成20年を境に微減傾向となり、現在の人口は122,304人（平成26年10月時点・対前年比0.79%減）です。

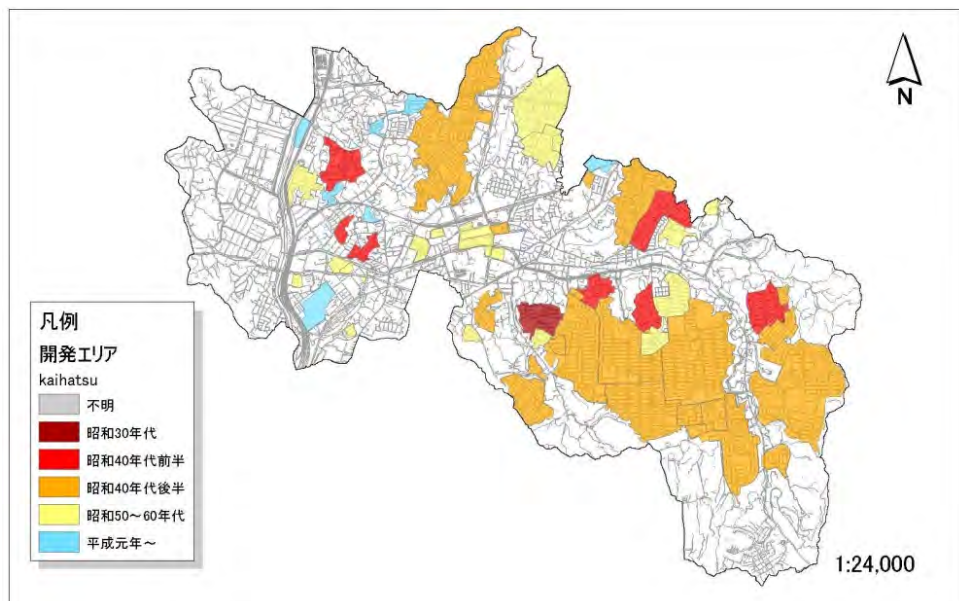
世帯数は、約5万世帯で過去5年間ほぼ横ばい傾向が続いています。1世帯当たりの人員は、過去5年間で2.48人から2.4人に減少しています。（平成26年10月時点）

将来人口推計では、今後もこの傾向が続き、予測値ではありますが、平成37年（2025年）には117,700人、平成47年（2035年）には、106,200人まで減少すると予想されています。

◇◇ 図1 栄区の人口と世帯数の推移



◇◇ 図2 栄区における住宅開発の動向



◇◇ 図3 栄区の将来人口推計

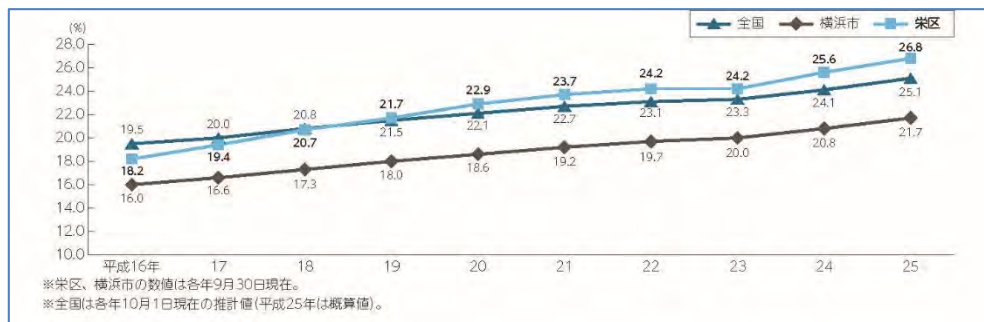


(2) 高齢化

高齢化率は、27.5%（平成26年1月時点）で、全国の高齢化率を上回っています。特に、桂台、犬山、庄戸など昭和40～50年代に大規模住宅開発された地域において、高齢化率が高くなっています。なお、要介護認定率は、栄区14.19%と市平均16.81%と比べると低く、健康なシニアが多いと言えます。

将来推計では、平成37年（2025年）には31.5%と予想され、平成22年（2010年）と比較すると後期 高齢者の割合は2.2倍にもなります。

◇◇ 図4 栄区の高齢化率の推移



◇◇ 図5 栄区連合エリア別高齢化率



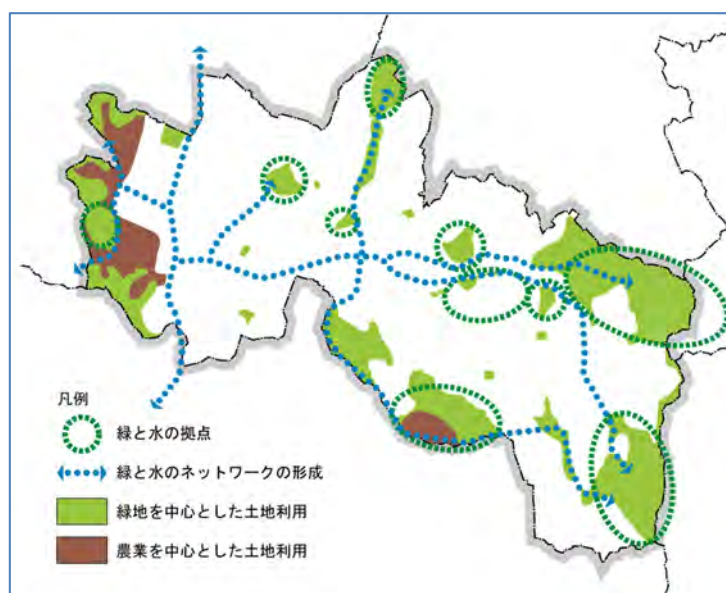
(3) 豊かな自然環境

栄区は、丘陵地を中心に市民の森やつながりの森など比較的規模が大きい豊かな樹林地があります。緑被率としては41.8%（平成21年度調査）と高い値となっています。

これらの樹林地は、ハイキング・散策などのレクリエーションや環境学習のフィールドとして利用されています。特に、いたち川遊歩道を経由して鎌倉へのルートは、首都圏でも人気のハイキングルートとなっています。

区内を東西に流れるいたち川や南北につながる柏尾川は、自然豊かな空間であり、河岸のプロムナードは、ウォーキングやバードウォッチングなどで楽しまれています。

◇◇ 図6 水と緑のネットワーク図



(4) 道路・交通

都市計画道路の整備率は、40.7%（平成26年3月時点）と低く、道路整備は遅れています。そのため、環状4号線の笠間交差点、神奈中車庫前交差点などでの慢性的な交通渋滞など生じています。

現在、首都圏中央連絡自動車道である横浜環状南線・横浜湘南道路、その関連街路であり、桂台・犬山地区などと本郷台をつなぐ上郷公田線の整備を進めています。また、環状4号線の整備（公田～本郷小学校）及び環状3号線の4車線化など整備を進めています。

区内のバス路線網は、港南台駅、戸塚駅、大船駅、本郷台駅といった鉄道駅へのフィーダーサービスとして、ネットワークが形成されています。その中で、本郷台駅へのアクセスが弱くなっています。また、高齢化・人口減少からバス利用者の低下により、バス路線の廃線もあります。

(5) セーフコミュニティ

栄区は自治会町内会の加入率が83.9%と高く、レクリエーションから福祉など地域活動も活発で、結束力もあり地域コミュニティの基盤となっています。また、古くからの生活圏などのエリアをもとに、自治会町内会から構成された地区連合町内会が7つあり、連合としての活動も熱心です。

こうした地域コミュニティが主体となった安全・安心の取組が評価され、平成25年10月に、WHO協働センターから「国際セーフコミュニティ都市」として認証されました。我が国で7番目、行政区としては初めてです。

(6) 区民特性

横浜市民意識調査（平成25年度）では、多くの栄区民は、暮らしやすいと感じています。特に、静か、緑や自然、まちなみ、近所づきあいへは満足が高くなっています。一方で、交通利便性や買い物、飲食、遊びなどへの満足は低くなっています。

栄区民意識調査（平成22年度）によると、栄区に「住み続けたいと考えている人」は約8割を占めています。一方、「住み続けたくないと考えている人」の理由として、交通の不便さ、スーパーや商店の不足による買い物の不便さがあげられています。

◇◇ 表1 暮らしの満足度（平成25年度横浜市民意識調査）

項目	栄区	横浜市平均	栄区の順位(18区中)
暮らしやすい	85.5 %	79.5 %	4位
静けさ	84.3 %	73.6 %	2位
緑・オープンスペース	86.7 %	64.9 %	1位
まちなみ	72.3 %	52.7 %	3位
近所づきあい	55.4 %	43.8 %	1位
交通利便	51.8 %	61.4 %	14位
買い物	49.4 %	61.8 %	16位
遊び・余暇	22.9 %	34.9 %	17位

(7) 本郷台のまちづくりの検討に向けて

現在の栄区民は身近にある自然の豊かさや地域のつながりから暮らしやすさに満足を感じています。しかし、高齢化が進む状況の中、買い物などの日常生活の不便さから不安も感じています。これからは、自然環境や地域コミュニティを生かしながら、こうした住宅地区の利便性の向上と買い物などの拠点づくりが課題であることがわかります。

本郷台のまちづくりでは、住宅地区との関わりの中で、拠点性をどう発揮していくかを検討していく必要があります。

2 本郷台駅周辺地区の現状と課題

(1) 駅前広場と公園

現 状

- ・本郷台駅前広場は、昭和48年に根岸線の全線開通と合わせて築造され、昭和56年に現在の姿となりました。面積は約6,700㎡と、乗降客数(約19,000人)から比較すると、大きな空間となっています。
- ・駅前広場には、交通施設としてバス(3バース)、タクシー(5台)、乗用車(7台)の乗降レーンを有するターミナルや、自転車駐車場(約2,500台)が整備されています。現状では、比較的円滑に利用されており、容量的には確保されていると言えます。
- ・改札口とUR団地内中央通路をつなぐ空間(約1,000㎡)は、自由なオープンスペースであり、最近、土休日を中心にイベント会場として活用されています。(表2、図7参照)
しかし、イベント以外の時は歩行者も少なく閑散とした印象があります。
- ・駅前公園(面積約2,000㎡、街区公園)は、駅前という立地にも関わらず、利用者が少なく、賑わいが乏しい状況です。これは、公園と駅前広場の一体性がないこと、商店街や駅前街路との連続性がないこと、樹木の繁みによる暗い空間などが要因として考えられます。
- ・駅前広場は、花崗岩の石畳であり、最近では珍しいヨーロッパの広場に見られるような重厚なイメージです。
一方、現段階では、駅への通行機能としての歩行者動線が主であり、例えば、たたずむ、滞留するといった使われ方はほとんどありません。

課 題

- ・駅前広場と駅前公園の賑わいづくりとソフトのしかけ
- ・人々のたたずむ・交わる・滞留を促すハードの工夫
- ・駅前広場と駅前公園の一体的利用

◇◇ 表2 「平成26年の本郷台駅周辺での主なイベント」

開催月	イベント内容	開催日	開催者	来客者数
1～3月	SAKAEヤングフェスティバル 中学校駅伝大会	3月22日	青少年指導員協議会・子ども会	10,000人
		3月22日	スポーツ推進委員連絡協議会など	2,000人
4～6月	あーすフェスタかながわ	5月17、18日	神奈川県・青年海外協力協会	1,500人
7～9月	アオソラマルシェ はたらくるくま大集合 さかえオープンカフェ	7月19日	全国農業協同組合・各種団体	3,000人
		7月21日	栄安全運転管理者会など	800人
		9月27日	栄区商店街連合会など	5,000人
10～12月	キャンドルナイト ほっとイルミネーション	11月8日	キャンドルナイト実行委員会	3,000人
		12月1日点灯	栄区商店街連合会など	600人

◇◇ 図7 イベントの様子



SAKAEヤングフェスティバル



中学校駅伝



あーすフェスタかながわ



アオソラマルシェ



はたらくるま大集合



さかえオープンカフェ



キャンドルナイト



ほっとイルミネーション

(2) 交通アクセス

現 状

- ・本郷台駅の利用者は、周辺駅と比較するとバス利用が少なく、結果として徒歩・自転車の割合が高い(駅勢圏が狭い)という特色があります。(表3参照)。
これは、本郷台駅へのバス利便性が低く、他駅の利用へ転じてしまっていることが考えられます。
- ・本郷台駅からのバス路線網としては、鎌倉駅、戸塚駅、上大岡駅、飯島団地、公田団地、小菅ヶ谷北公園へのルートがありますが、区内でも人口が多い、桂台、庄戸地区や豊田地区へのアクセスはありません。
- ・本郷台駅周辺の道路整備については、桂町戸塚遠藤線を軸として、それにつながる環状3号線、4号線、上郷公田線が計画されていますが、いずれも未整備部分があり、ネットワークの形成には至っていません。特に、上郷公田線の整備は、桂町戸塚遠藤線とつながり、桂台、庄戸地区などから本郷台駅への利便性向上に貢献します。
- ・横浜環状南線(首都圏中央連絡自動車道)の公田インターチェンジが、近隣に計画されており、今後は、鉄道駅と高速道路利用の連携なども考えられます。

課 題

- ・上郷公田線などの道路整備による駅へのアクセスの強化
- ・本郷台駅を中心としたバス路線網の充実、特に、桂台・庄戸・豊田地区との連絡

◇◇表3 駅利用分担率

駅名	乗降客数 (一日あたり)	分担率			
		バス	乗用車	自転車	徒歩
本郷台	19,278人	6%	4%	13%	76%
大船	97,118人	26%	4%	9%	58%
港南台	33,377人	17%	5%	6%	70%
戸塚	109,988人	32%	2%	9%	54%

出典：JR東日本データ「各駅の乗車人員2013年度」
第5回東京都市圏パーソントリップ調査

(3) 駅周辺への集積

現 状

- ・本郷台駅周辺には、市営住宅とUR団地の1階に商店が集積しており、スーパーも2店あります。集積規模は決して大きくはなく、日用品などの生活必需品を扱う住宅地型の商業と言えます。
一方、最近では、区内在住者の運営によるジャズバーやイタリアンなど若者向けの瀟洒な店舗が立地しています。
- ・大船、戸塚、港南台など近隣駅周辺には、大規模商業施設等が立地しています。買回り品等の購入は、近隣駅へ向かうケースが多いです。
- ・駅周辺は、第二次世界大戦後に米軍接収されていた経過から、公有地が多く、公共的施設が多く立地しています。
駅に近接して、文化施設としてあーすぷらざ(区民文化センター含む)、ぷらっと栄(区民活動センター)、福祉施設として保育園、また、身近な徒歩圏域には、柏陽高校、区役所、公会堂、警察学校などが立地しています。(表4参照)
- ・駅に近接して市営住宅(1棟 240世帯)、UR団地(4棟 720世帯)があります。また、いたち川沿いに南小菅ヶ谷国家公務員住宅(国有地)があり、民間企業への売却処分が予定されています。

課 題

- ・近隣駅周辺と異なった本郷台らしい魅力づくり
- ・現在の最寄品を中心とした商業立地から、顧客範囲の拡大につながる集積
- ・文化・アートなど既存施設の活性化
- ・国有地の計画的な誘導

◇◇表4 駅周辺の施設立地の状況

行政施設	栄区役所、栄土木事務所、栄消防署 栄警察署、法務局栄出張所
教育施設	本郷中学校、県立柏陽高校 栄図書館
医療・福祉施設	栄共済病院 小菅ヶ谷地域ケアプラザ、保育所
文化・市民活動施設	あーすぷらざ、栄区民文化センターリリス 栄公会堂、栄スポーツセンター、本郷地区センター ぷらっと栄(さかえ区民活動センター)

(4) 高齢化

現 状

- ・駅周辺の集合住宅、近隣の住宅地では高齢化が進んでいます。居住形態は、一人住まい（独居）、老夫婦のみの世帯などが増えており、今後、この傾向は続いていくと考えられます。一方、多くの高齢者は、元気で社会活動に積極的に関わっています。駅前という都市的空間ですが、つながりのある地域コミュニティが形成されています。
- ・駅周辺は、通勤途中の保育所など、子育て支援施設のニーズが高くなっています。本郷台も同様であり、あわせて、国有地の活用において、新規居住者のためにも、保育資源の確保は必要になります。
- ・高齢者や障害者の暮らしやすさや子育てのしやすさとして、外部空間への誘導（室内にこもらず、外へ出ていきたくするようなしかけ）、さらに、積極的な交流を誘導するようなしかけが有効です。

課 題

- ・コミュニティに支えられた誰もが居心地の良く、交流のある外部空間の形成
- ・保育施設、高齢者の生活サポート施設の充実

(5) 豊かな水と緑

現 状

- ・本郷台駅に近接していたち川があります。いたち川は、流域が自然に恵まれた、すなわち浸透性の高い土地利用のエリアが多いため、水量が多く、水鳥・魚類など多くの生物が生息しています。また、両側には遊歩道が整備されており、本郷台からいたち川遊歩道を通り、自然観察の森、鎌倉方面などへもアクセスできます。
昨今のウォーキングブームから、本郷台からのウォーキングも増えています。
- ・駅周辺には、整備当初に植樹された街路樹（イチョウ）やオープンスペースに植えられた樹木（ケヤキ）などがあり、多くが大木に生育しています。
一方、老朽化している樹木などもあり、緑空間づくりとして再生が必要になっています。
- ・駅前広場には、ワシントン・ポトマック河畔の里帰り桜の植樹コーナーや、駅前通りでの区民参加による花植えなどが行われています。
しかし、広場や公園全体としての区民参加による維持活動などには至っていません。
また、いたち川が近接にありますが、いたち川の自然の豊かさを身近に感じられるような環境ネットワークは形成されていません。

課 題

- ・本郷台を起点としたいたち川遊歩道ウォーキングの広がり
- ・いたち川と駅前広場をつなぐ軸の形成や、緑空間の拠点とネットワークづくり
- ・駅前広場や公園の緑再生
- ・区民参加による緑の維持保全活動の広がり

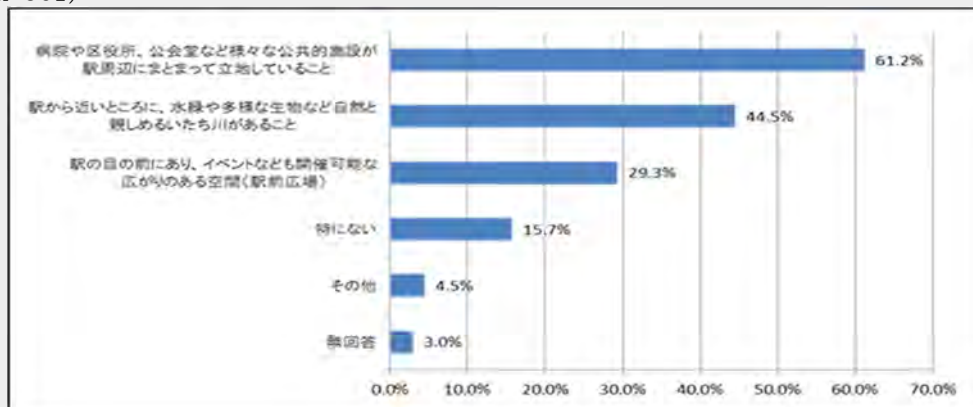
(6) 区民の期待

現 状

- ・区民アンケートによると、駅周辺地区の魅力として、様々な公共的施設が立地していること、自然と親しめるいち川が近隣にあること、イベントなども開催可能な広がりのある空間が駅前にあることが挙げられています。(図8参照)
- ・また、駅前活性化に向けて、買い物環境やカフェ等の充実、道路交通環境の整備、交通結節点としての機能強化などが求められています。(図9参照)

◇◇図8 平成23年度区民アンケート

栄区では、区心部である本郷台駅周辺地区を、活力ある元気なまちにしていこうと区全体の活力向上を目指しています。あなたが現在の本郷台駅周辺地区において、ここが魅力だと思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)
(n=861)



◇◇図9 平成25年度区民アンケート

栄区では、本郷台駅を区の玄関として活力ある場所としていくため、にぎわいづくりを進めています。そのために、特に力を入れた方がいいと思う項目は何ですか。(○は3つまで) (n=763)



3 主な論点

本郷台駅周辺の賑わいについて、多岐にわたる視点で検討しました。目標像を検討するに当たり、主な論点を整理します。

論点 1 本郷台の個性をどう考えるか

自然環境の創造及びコミュニティ活力の反映

- ・栄区の強みとしては、まずは、豊かな自然環境です。本郷台に着目するといたち川沿いの水と緑、そこに生息する水鳥、魚類などの生き物などの存在、そして、街路樹、オープンスペース内の成熟した樹木などが強みといえます。
- ・WHO協働センターから認証を受けたセーフコミュニティ都市に代表されるように、つながりのある地域コミュニティも大きな強みです。本郷台駅周辺の居住者によるコミュニティも充実しており、温かく支えあう土壌が根付いています。
- ・本郷台のまちづくりを考えるに当たり、自然環境を積極的に生かしていく、そして、コミュニティの活力を生かしていけるまちづくりを基本として考えます。

論点 2 まちづくりの手法をどう考えるか

国有地での地区計画の適用及び駅前広場・公園の再整備

- ・本来は、まちづくり構想に基づき、具体的な実現方策を考えるものですが、今回は、国有地の活用や駅前広場などの公共空間が対象であるため、まちづくりの手法を念頭において、構想づくりを進めます。
- ・国有地については、公的要望がない場合、一般競争入札による売却が基本的な考え方になります。国有地の面積が大きく、厳しい財政状況の中、すべてを自治体が購入し、利用することは困難です。そこで、民間売却を基本として、区民の皆様から頂いた意見を取り入れながら、地区の特性に応じた合理的な土地利用と市街地環境の維持増進等を図るなど、自治体が期待する開発方向へ誘導する手法(都市計画法の地区計画制度の適用)を検討します。
- ・駅前広場及び駅前公園は、市の所有管理であるため、全体計画に基づき、市が再整備します。

論点3 賑わいづくりを考える

民間開発による交流・商業機能などの充実

- ・賑わいづくり、つまり集客のためのハード面でのポイントは3点あります。駅前広場・公園の再生、国有地の活用、バスアクセスの改善です。
- ・その中で、国有地の活用による賑わいづくりの方向性は十分に議論する必要があります。民間開発による賑わいづくりとして商業施設の導入は有効ですが、収益性に左右されるため、大規模な商業施設が誘致できる見通しは不透明です。一方で、公費投入による大規模な公共施設についても、実現性含め、検討を要します。
- ・そこで、賑わいづくりとして、次のシナリオを検討しました。

	内容	課題	評価
シナリオ1	大規模な商業施設の整備による賑わい	集客には短期的には最も効果が高い 港南台、大船などとの競合 大規模商業の導入の見通しの困難さ	
シナリオ2	大規模な公共的施設の整備による賑わい	大規模な公共的施設の整備は実現性が困難	
シナリオ3	民間開発による商業機能と公共的施設の複合整備による賑わい	民間開発として実現性は可能 開発における賑わい創出のための誘導方策が課題	○

論点4 公共的施設の整備を考える

地域ケアプラザなどの整備を検討する

国有地の活用として少子高齢化時代に対応した公共的施設整備の検討候補として、地域ケアプラザ、地区センターが区民から要望されました。また、ぷらっと栄（区民活動センター）、福祉活動拠点など考えられます。これらについては、駅前での交流とにぎわい、さらに、論点1のコミュニティの充実の視点で検討します。

4 まちづくりの目標

(1) イメージ

多くの人が「賑わい」の中、「水と緑の豊かさ」と「人との触れ合い、やさしさ」を感じられるまちを目指します。そのためには、「アクセス性の強化」により、郊外部からも人が集まり、「魅力ある空間と交流の場づくり」により人々が時にワクワクと時に穏やかにたたずめるようなまちづくりを進めます。

(2) 目標

ア 区民が主役のまちづくり

- ・まちづくり構想は、将来像や目標等について、区民の皆さまと意見交換を重ねつくりあげたもので、まさに、これからが実践のスタートです。まちづくりを実現するにあたっては、区民、地域、民間、行政等、多様な主体が目標を共有し、相互理解のもと、連携協働の輪を広げます。

イ 郊外部エリアの生活拠点のまち

- ・現在は、駅から徒歩圏のエリアを中心とした拠点となっています。これからは、高齢化人口減少、商業施設の不足などの課題を抱える区郊外部のエリアなどの日常生活を支える生活拠点としての役割を果たします。
- ・その際、周辺駅(大船、戸塚、港南台)との競合もあり、商業集積に偏らず、文化活動など多様な機能集積を目指します。

ウ 水とみどり、そして人がたたずむまち

- ・現在の駅周辺のエリアは、広い広場や公園はありますが、人が穏やかにたたずむような空間になっていません。人の行動に着目した空間づくりが必要です。
そこで、広場と公園の一体性、UR団地や国有地、いたち川との連続性などに配慮し、賑わいとして四季折々の花いっぱい、人が安らげるベンチ、あわせてオープンカフェなどの開放型の施設などを取り入れるなど高質な空間づくりを目指します。
- ・現在ある高木(ケヤキ、イチョウなど)は、極力生かしつつ、さらに、いたち川の豊かな自然を感じられる、また、身近な足元の緑づくり(芝生化や花壇づくり)に配慮します。
特に、いたち川と駅前広場がオープン空間としてつながり、いたち川からの風を感じられるようにすることを目指します。

エ 福祉と文化・アートの香るまち

- ・高齢者や障害者、子育て保護者などが積極的に出歩きたくなるようなまちを目指します。

栄区には、高齢者・障害者や子育て家庭を温かく見守り、共に暮らしていく風土が根付いています。本郷台は、その象徴として、支援・交流機能の充実とともに、ボランティアなどが集うまちを目指します。

- ・栄区民は、文化・アート活動への関心が高く、自らも熱心に活動をしています。

あーすぷらざ、ぷらっと栄、公会堂などの施設を生かし、本郷台駅前全体をフィールドキャンパスとして、日常のかつ積極的に、文化やアート活動が繰り広げられるまちを目指します。

オ 賑わいのあるまち

- ・日頃からイベントやオープンカフェなどがあり、多くの人が集い、交流し、たたずむ、そして、ふれあうまちを目指します。

そのためには、ハード面の対応（駅前広場・公園の空間づくり）や施設導入（商業施設間の広がり、福祉・文化等の交流機能など）などとともに、日ごろから駅前空間が利活用されるソフトな「しかけ」を導入します。

5 まちづくりの方針

方針1 駅前広場と駅前公園の再生

再生の考え方

駅前広場と駅前公園は、商店街を含めた一体的な開放的空間の確保として再整備します。

再整備に当たって配慮すること

- ・人が憩い、たたずむ場としてベンチなどストリートファニチャーの設置
- ・一年中花が咲く花壇やフラワーバスケットなどによる花いっぱいの空間
- ・芝生化(公園やターミナルのアイランド部など)
- ・樹木環境の再生
- ・駅前広場からいたち川への繋がりが感じられるような配慮
- ・子ども達が安心して遊べる安全な公園整備

方針2 国有地の活用

開発手法の考え方

国有地は、公的要望がない場合、一般競争入札による売却が基本的な考え方です。民間企業の場合、住宅開発が主となりますが、その際、当地区が、いたち川に近接していること、UR団地と一体的な貢献が期待されていることなどを踏まえ、本郷台駅前にふさわしいまちづくりとしての誘導が必要です。

そこで、地区計画制度を適用します。

地区計画について

地区計画では、周辺市街地の環境に配慮し、敷地内の緑化や有効なオープンスペースを確保し、駅前広場といたち川をつなぐ歩行者空間の整備を図ることを方針として定めるとともに、商業施設や地域貢献施設及び都市型住宅の立地を図ります。

そこで、地区施設としての広場や歩行者用通路、並びに用途、容積率の最低限度、敷地面積の最低限度、高さの最高限度の緩和及び建築物の形態又は意匠の制限といった項目について、地区整備計画を定めることで地域資源を生かしたまちづくりや、駅前に相応しいにぎわいの創出を実現します。

導入に向け、検討する公共的施設

- ・高齢者などの交流・支援機能(地域ケアプラザ等)
- ・区民交流機能、子育て支援機能

方針3 アクセスの改善

バス路線の拡大

区内各地から、バスアクセスできるようにします。特に、上郷公田線を活用したバスルートは、早期に導入するよう調整します。また、庄戸方面、豊田方面からのバスアクセスについて検討します。

あわせて、本郷台を利用する既定路線のバスの増便についてもバス事業者等と協議・調整を進めます。

道路整備の推進

横浜環状南線、上郷公田線の整備を推進します。

自動車利用者・自転車利用者・歩行者への配慮

本郷台駅の利用者は、徒歩(76%)の次に自転車(13%)が多いことから、自転車専用レーンの設置など、自転車利用者と歩行者の安全性・利便性を検討します。

また、通勤・通学だけでなく高齢者等の買い物のための短時間利用など、駐輪場利用が多様化していることを受けて、既存施設との連携を含めた将来的な駐輪場のあり方を検討します。

方針4 まちの運営

まちの運営の考え方

まちの運営(維持・管理等)には、既存のコミュニティと新たなコミュニティとの調和や連携が重要です。

イベントの展開

現在も、駅前ではイベントが実施されており、集客が図られています。しかし、イベントは、一過性であり、まちの発展への波及には至っていません。民間のノウハウも生かしながら、プロデュース機能を強化し、つながりのあるイベントを展開します。具体的には、地場野菜の販売などのマルシェやオープンカフェなどの導入を検討します。

商店街の活性化

現在、各商店街ではそれぞれ独自にイベント等が開催されています。今後は、駅前でのイベント開催にあたっては、商店街とも連携し、まちと商店街の活性化につなげます。

文化・アートの盛り上げ

文化・アートに関するイベントを展開します。また、文化・アート活動が盛んな施設であるあーすぷらざ、区民文化センターリリス、公会堂や地区センターなどが連携し、前記プロデュース機能により、一層の盛り上げにつなげます。

まちの維持

駅前広場や公園の花の水やり、植え替え、芝生の維持、清掃など、まちを美しく維持するための活動が必要であり、これには、地元の皆さまの取組が不可欠です。駅前エリア、UR団地、国有地それぞれで維持する主体は異なりますが、「ふるさと本郷台」への愛着や誇りを育みながら連携した活動を展開します。

まちづくりの方針

本郷台駅周辺地区（検討範囲）
地勢的なまとまりがあり、栄区の
中心部として一体的かつ総合的な
視点でのまちづくりの誘導を図る
ゾーン



地区のシンボリックな広場の風格や緊急時の拠点としての機能を装備



歩行者と自転車の動線スケールに
合わせた快適性を優先する通り



賑わいや人が滞留できるしつらえに
配慮する通り

通りに開いた花と緑のオープンスペース

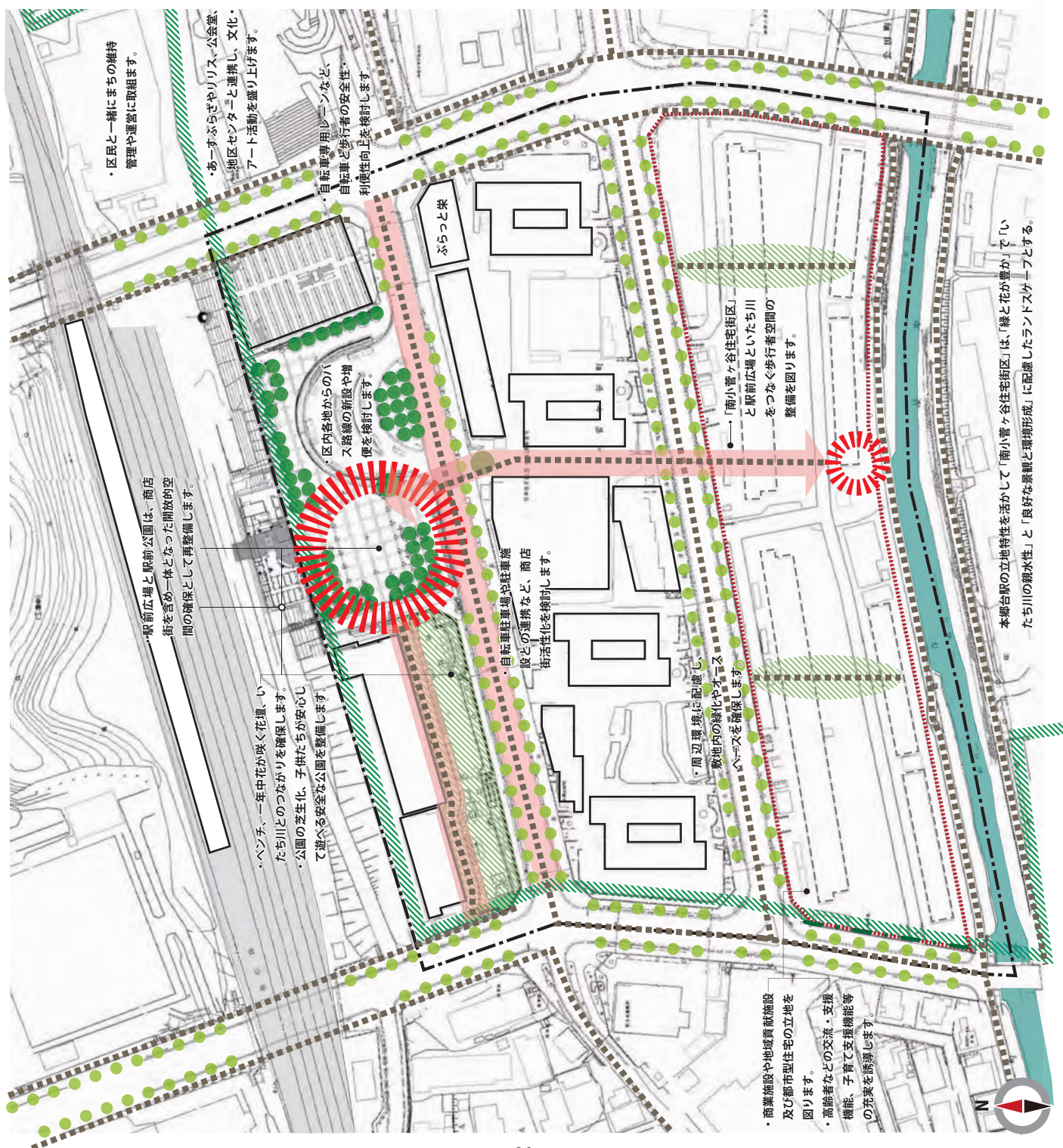
並木や高木の健全な育成



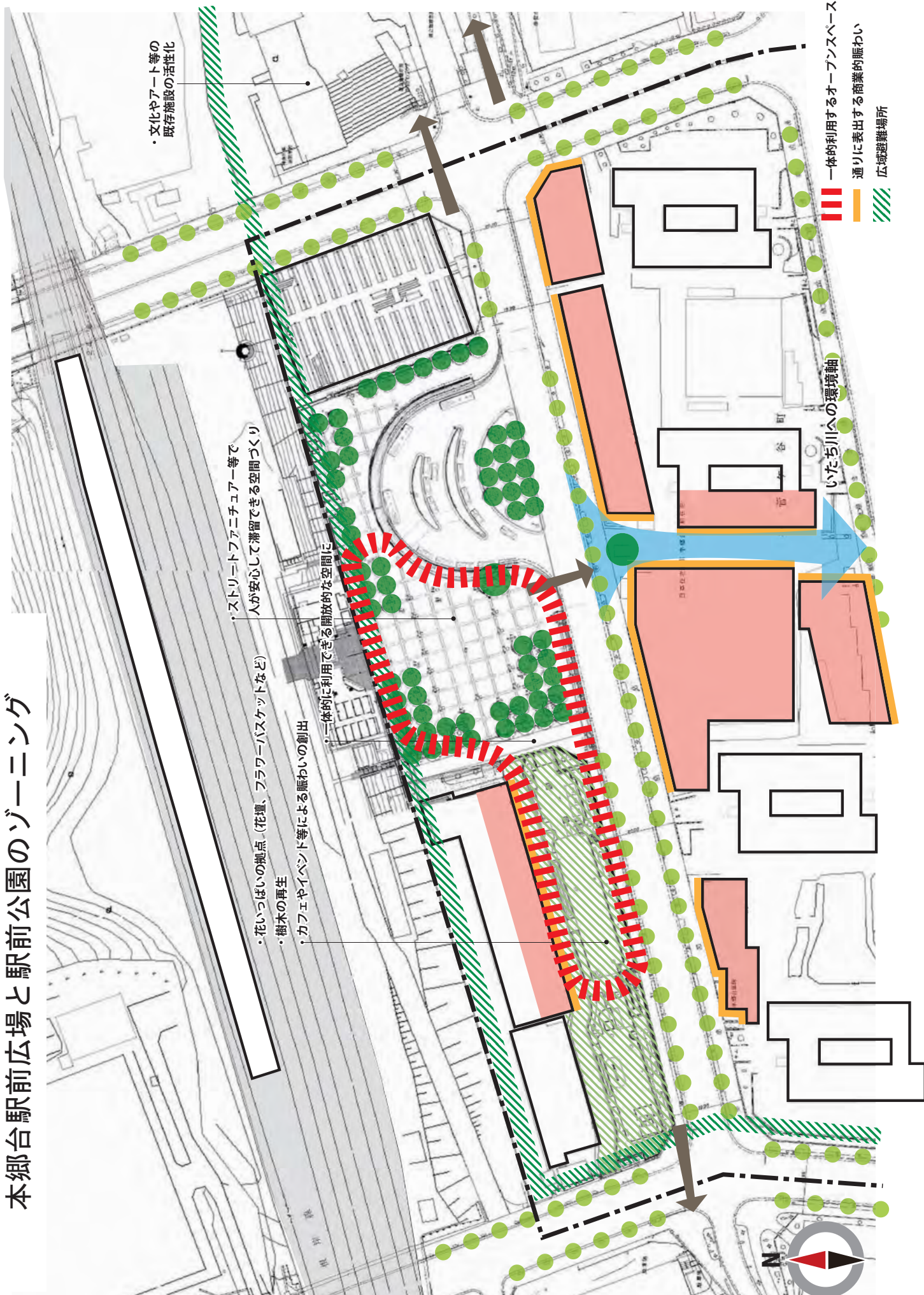
南小菅ヶ谷住宅街区

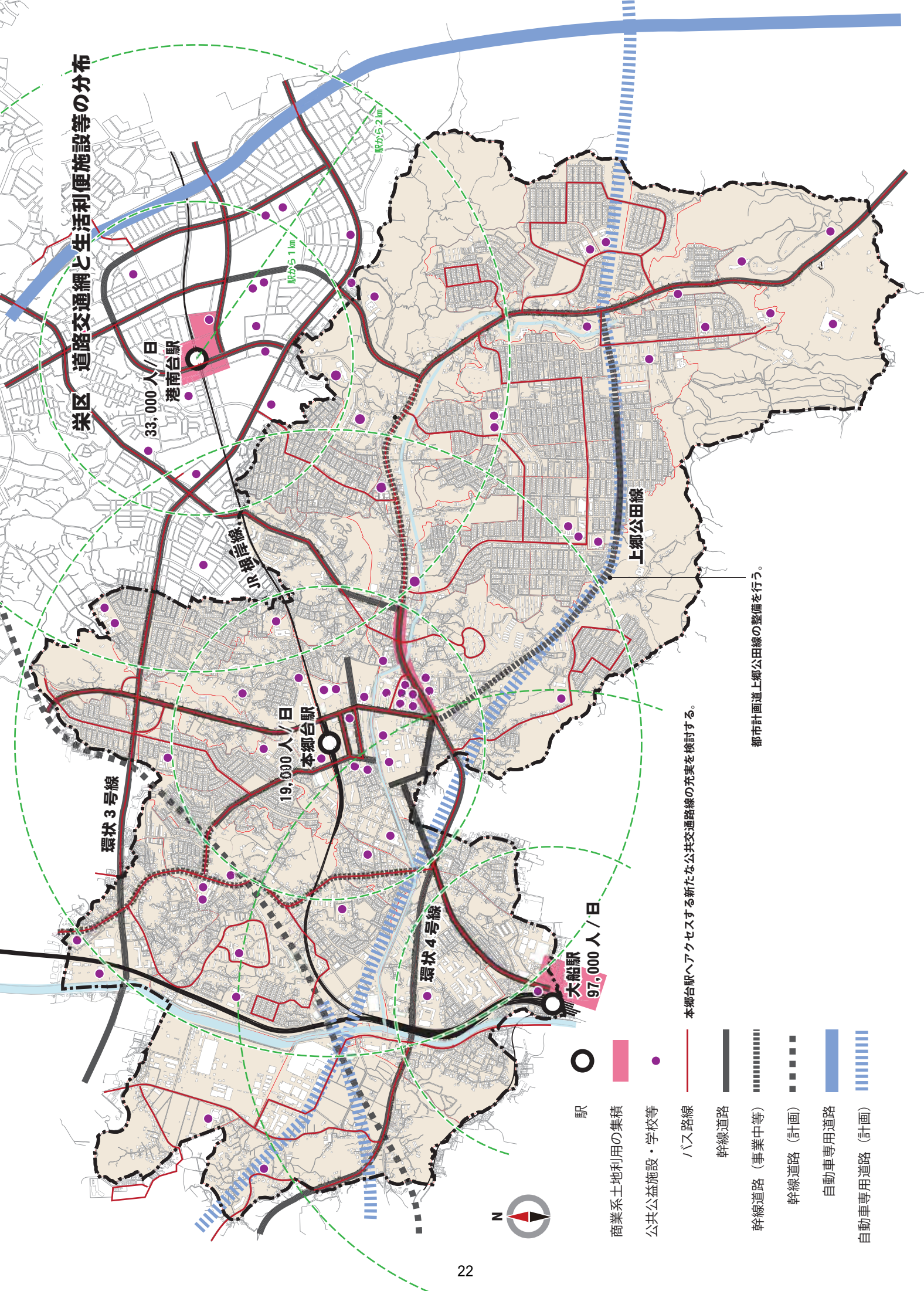


広域避難場所



本郷台駅前広場と駅前公園のゾーニング



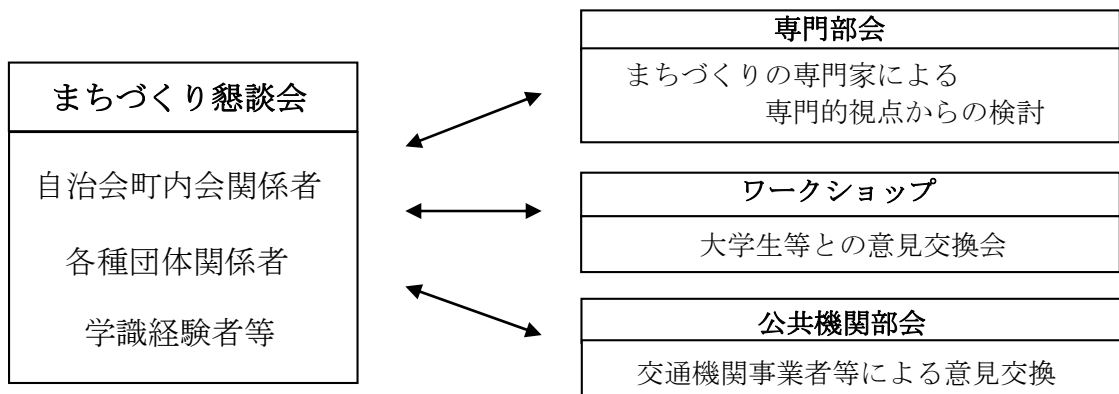


参 考

(1) まちづくり懇談会の概要

まちづくり構想策定にあたり、区民、各種団体の代表者及び学識経験者等から様々な視点からの意見を伺い、目指すべきまちの将来像について検討を進めることを目的に「本郷台駅周辺地区まちづくり懇談会」を設立しました。

【懇談会体制】



<事務局>

栄区役所区政推進課、栄土木事務所、都市整備局地域まちづくり課

【懇談会委員】

別表「本郷台駅周辺地区まちづくり懇談会名簿」参照

【開催日】

第1回 平成26年7月22日

- ・栄区及び本郷台駅周辺地区の現状について
- ・本郷台駅周辺地区まちづくり構想の策定に向けて

第2回 平成26年10月20日

- ・まちづくり構想（案）について
- ・地区計画イメージ（案）について

第3回 平成26年12月8日

- ・まちづくり構想素案について
- ・地区計画の概要について

本郷台駅周辺地区まちづくり懇談会名簿

(平成27年1月20日現在)

	氏名	団体名
自治会町内会	磯崎 保和	栄区連合町内会長・豊田連合町内会自治会長
	持田 忠	笠間連合町内会自治会長
	田中 房一	小菅ヶ谷連合町内会自治会長
	細田 利明	本郷中央連合町内会自治会長
	保坂 順弥	本郷第三連合町内会長
	新保 孝雄	上郷西連合町内会長
	吉田 敏生	上郷東連合町内会長
	高野 泰正	本郷台駅前市街地住宅自治会長
各種団体	臼井 喜代士	栄区商店街連合会長
	田鹿 曜二	本郷台駅前商店会長
	西郷 治雄	本郷台駅前アーケード商店街会長
	日浦 美智江	栄区社会福祉協議会長
	風間 聰彦	栄区文化協会长
	小西 淳一	栄区青少年指導員協議代表
	伊東 一郎	栄区スポーツ推進委員連絡協議会代表
学識経験者	倉田 直道	工学院大学名誉教授
	島田 正文	日本大学短期大学部教授
	松橋 圭子	鎌倉女子大学准教授
顧問	大桑 正貴	市会議員
	輿石 且子	市会議員
	石渡 由紀夫	市会議員
	楠 梨恵子	県議会議員
区	尾仲 富士夫	栄区長

(2) 専門部会・公共機関部会の概要

ア 専門部会

本郷台の個性をどう考えるか、まちづくりの手法、賑わいづくりなどについて、都市計画・都市デザイン、環境、建築・まちづくり等の専門家による専門的視点からの検討を進めるため「本郷台駅周辺地区まちづくり懇談会専門部会」を設立し、まちづくり構想を策定しました。

【部会委員】

倉田 直道委員（工学院大学名誉教授）
島田 正文委員（日本大学短期大学部教授）
松橋 圭子委員（鎌倉女子大学准教授）

【開催日】

第1回 平成26年 8月28日
第2回 平成26年10月 3日
第3回 平成27年 1月15日

イ 公共機関部会

駅周辺地区で区民の方々が利用するバス、鉄道などの公共交通機関方々や駅周辺に関連する公共公益機関等の方々のまちづくりに関わる意見を伺う場として「本郷台駅周辺地区まちづくり懇談会公共機関部会」を設立し、意見交換をおこないました。

【出席者】

神奈川中央交通(株)、(株)江ノ電バス、J R東日本、
カナガワ交通イースタン(株)、(株)ケイサントクシー、
あーすぷらざ、U R都市再生機構、栄警察署

【開催日】

平成26年 8月29日

(3) ワークショップの概要

高齢化や人口減少といった課題を抱える中、本郷台のまちづくりは、若者から注目され、多世代にとって魅力あるまちづくりが求められています。

このため、若い世代の意見や提案を取り入れるため、大学生を中心としたワークショップを開催し、まちづくり構想に反映しました。

ワークショップでは、若者目線で考える「住みたいまち本郷台」をテーマに、将来の仕事・育児を見据えて、若者が求める駅前理想像をグループディスカッションにより話し合いました。

【参加者】

大学生・大学院生、専門学校生、高校生

【開催日】

第1回 平成26年11月21日

第2回 平成27年3月5日

(4) 意見募集

広く区民から意見やアイデアをいただくため、広報よこはま栄区版において区民目線に立った特集「みんなで始めよう！本郷台のまちづくり」を掲載し、まちづくり構想素案に対する意見を募集しました。

【募集期間】

平成27年2月2日～平成27年2月23日

【周知方法】

区ホームページ、広報よこはま栄区版2月号

【募集状況】

50の個人・団体（個人42・団体8）から101件

【意見の内訳】

1 構想全体に関すること	32件
2 利便性に関すること	20件
3 国有地跡地に関すること	20件
4 駅前広場・駅前公園に関すること	17件
5 その他	12件

本郷台駅周辺地区まちづくり構想

平成27年 5 月

横浜市栄区区政推進課

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19

TEL045-894-8161 FAX045-894-9127